

学び方を生かした授業展開

伊藤正統 | 広島大学附属三原小学校

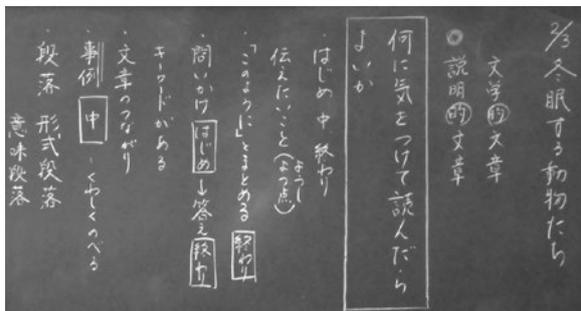
1. はじめに

本校では学校図書の教科書を用いて授業を行っている。子どもは、年間を通して4つの説明的文章と出会い、大切にしたいキーワードや学び方をつかんでいく。ここでは、そのうち4つ目に出会う説明的文章に焦点を当て、既習の学習内容とつなげる授業展開を提案する。

2. 今まで学んだことを洗い出す

まず、「冬眠する動物たち」(学校図書 第3学年)を学ぶにあたり、教材が説明的文章であることを明示し、文学的文章と分けて考えさせる。次に、これまでどのようなことに気をつけて説明的文章を読んできたかを尋ねる。そうすることで、子どもが身につけている説明的文章の読み方を確認する。

本教材で子どもが挙げたのは、「はじめ」「中」「終わり」の文章構造、段落、事例、要旨、要約、「このように」で始まる「終わり」のまとめ、キーワードなどだった(図1)。



▲図1：子どもの読み方の振り返りの板書

その上で、説明的文章は、どのような目的で書かれているかに着目させ、何を読み取ったらよいのかを考えさせる。実際には、筆者が主張したいことを読者に伝えるように書いている文であることを確認

し、筆者の主張をとらえさせた。子どもは、「終わり」の「このように」に着目して、「冬眠する動物たちは、それぞれの過ごし方で厳しい冬を乗り切っている」ととらえた。そこで、「それぞれ」とは何かと尋ねた。子どもは、段落、事例、キーワードを駆使しながら、厳しい冬を乗り切る動物たちの過ごし方を明らかにしようと文章を整理していった。

3. 文章を読み解く

文章の整理にあたっては、教科書からキーワードを付箋に抜き出し、4人グループでホワイトボード上に分類・整理した。付箋には、1枚に1つのキーワードを書くようにした。子どもは、「マーカーがほしい」と要望し、ホワイトボード上に整理した区分などを書き足した。このように作成したものを端末で撮影し、それを見ながらノートにまとめた。その後、端末をモニターに接続して写真を提示しながら、まとめを発表し合い、根拠となるキーワードや分類・整理を共有した。

また、最後に「読者に伝えるように書いた文章なのに、なぜみんなが知らないヤマネを題材にしたのか」と問うた。この教材に出てくるカエルやシマリスやクマなどは子どもになじみのあることから、ここに筆者の主張があることを気づかせたかったからである。子どもの発言をまとめ、動物によって冬眠中のエネルギーを節約する方法が異なることをおさえた。

4. おわりに

資質・能力を育成する授業では、学んだことを使って読ませることが大切だと考える。一方で、学びを広げ、深めていくためには、新たな学びを付加していくことも大切だと考える。